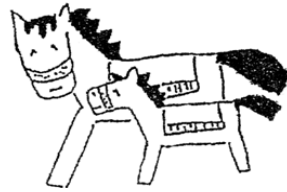


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと

26年 12月 NO. 241



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

## ～どなたでも～ 12月の主な活動 ～お気軽にどうぞ～

12月 12日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「おはなしであそぼ！」をテーマに 絵本や紙芝居・手あそびをします。
12月 13日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入ってあそびます。 こどもの集団を体験してみませんか。
12月 19日	金	香川みずぶさんの会 14:00～16:00	災害時や日常の電気の安全について 四国電気保安協会の方から講習をうけます。
12月 19日	金	健康育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科医）にゆっくり相談できます。 (要予約)
12月 20日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も育児体験に おいでください。
12月 20日	土	脳力いきいきアート 14:00～16:00	シンプルなアートを通して自分自身の気づきを 深めていくワークです。どなたでもどうぞ。

・火～土の13時～16時までは、園内開放しています  
ので、親子でご来園下さい。  
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9:00～18:00  
しつけや子育てについての悩み、保育園生活  
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター



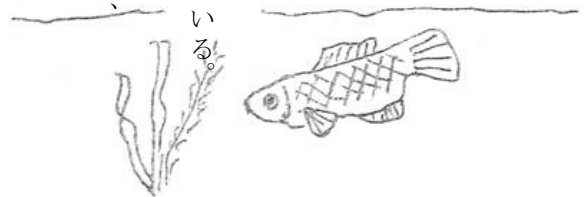
金子みずぶ童話全集②

よ  
お家をもたぬお魚は、  
潮の鳴る夜も、凍る夜も、  
夜っぴて泳いでいるのだろ。

みんなお家をもつものよ、  
夜はお家でねるものよ。  
けれど、魚はなにがある、  
穴をほる手も持たないし、  
丈夫な殻も持たないし、  
人もお小舎をたてもせぬ。

小鳥は枝に巣をかける、  
うさぎ  
兎は山の穴に棲む。  
うしごや わらとこ  
牛は牛小舎、藁の床、  
でむし  
蝸牛やいつでも背負っている。

お家のないお魚



前月にひき続き、「抜萃のつどり」(熊平製作所発行 その73)より書家 金澤 翔子さんのことについて母泰子さんの文をご紹介します。

## 純粹な魂の書

金澤 泰子

### 不満、不安、嘆きなどない

娘・翔子は知的障害を持つダウン症者である。翔子は社会の構造が解からない。数列もよく分らない。いわゆる科学的な知性は持たないので、地位やお金や、効率の良さ、合理性を求める社会には巻きこまれない。現実からはるか離れた地平にいる翔子は、実にゆっくりと幸せな日々を生きている。

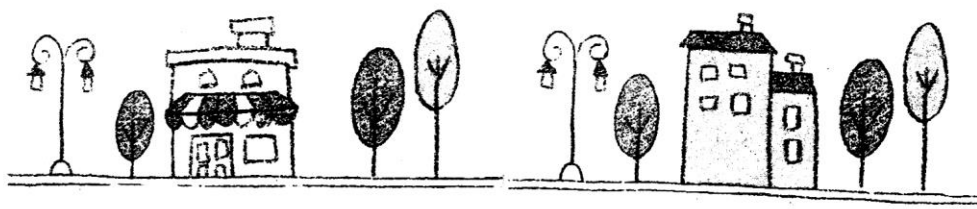


知的な遅れがあるために学歴社会には入れない。私は長い間そのことを嘆いていた。しかし、学歴の外にいたことは、実はとても幸いなことであったと、後になって分かってきた。学歴社会に入れないと試験を受けないで済む。試験を受けない翔子は競争心が養われなかった。競争心がないと、人を羨んだり、妬んだりしない。その上に、社会の構造が解らないので偉くなりたいとかお金持ちになりたいと思うこともない。このように俗世に欲望のない無心な翔子の心には「人に喜んでもらいたい」という愛が満ちてくる。その思いはとても優しく、豊穡。

翔子が想いをめぐらす範囲は、せいぜい明日のお昼ごはんぐらいまでなので、未来を想って不安になったり恐れたりしない。将来に希望を持ったり、目標を持ったりしないし、過去を振り返り悔やんだりなどもしない。目標や計画を持たないということは、その刻その刻を百パーセントの絶対時間に生きていられる。その時空はじつに豊かで、素晴らしい。予想的な不安がないのでいつもわくわくと楽しい。いつもニコニコしている。

翔子には「出来ない」ということは無いのです。今していることがやりたかったこと、今、手に入っているものが欲しかったものなのです。その世界を想像してみてください。不満や不安、嘆きがないのです。

翔子の世界は、いつもその時、その場で満ち足りているので、とても豊かで平和。そんな思いで生きている翔子の創り出す書に、多くの方が涙を流してまで感動してくださるのだと思う。



## 花に、月に「ありがとう」

翔子はいつもピンクの名刺を持っていて、声をかけてくださる方の誰にでもその名刺をお渡しする。どんな方にでも。政財界の偉いかにでも、町の路上生活者にも、誰にでも同じように・・・。

先日、撮影の時、大勢の人が集まってくれた。そこにはご夫婦に連れられた犬がいた。翔子はその犬にも、丁寧に両手を添えて「どーぞ」と言って名刺を渡した。犬も神妙にその名刺の前にしばらく座っていた。周りの人たちは爆笑した。しかし私はその中で一人、感動して佇たたずんでいた。翔子の平等意識は凄い。犬も人間も、偉い人も貧しい人もみな同じなのだ。

翔子は花に手を合わせ、暗い夜道を守ってくれる月に「ありがとう」とお礼を言って玄関に入る。翔子にはあらゆる所に、命がありありと見えているのでしょう。一輪の花だって私の心を動かすことができる。月にも風にも犬にも人間にも石だって・・・どんなものでも人の心を動かし得る力がある。

それなのに私はあまりに観念的、科学的に考えることに慣れてしまっていて積極的には動かない。話もしない、意思も表明しない（と思い込んでいる）、それらが我々の心を動かすということを忘れていた。木も山も石も子犬もわたしの心を動かしてくれるではないか。この翔子が犬に丁寧に名刺を渡す光景で私は命への想いが根本的に変わった。私の平等の考えなどとても陳腐ちんぷであったと反省する。

## 美しさに魂を見る

ただ綺麗とか美しいと思って愛でめていた景色に命が見えるようになった。その美しさに魂を見ることができるようになった・・・どれほど多くのことを翔子は私に気付かせてくれたのであろう。そんな翔子の個展には沢山の人がいらして感動してくれる。泣いている人も多くいる。私は40年余り書をして生きてきたけれど、私の書にはいまだに唯ただの一人も涙を流して感動してくれた人はいない。私は鍛練と努力を重ね、その果てにあまりに観念的になりすぎていたのだろう。きっと翔子のようにその瞬間に生き、障害によって育まれた純粋度が保たれた魂の領域で書く字が感動を呼ぶのでしょう。只々、誰かに喜んでももらいたく、只々、その時の想いを無心に書く。そんな書に、私の書などかなう筈はずがない。

(かなざわ やすこ＝書家・PHP「ゆとりのある人・心穏やかな人」25年5月号)

金澤 翔子プロフィール

書家。1985年、東京生まれ。5歳の時より母・泰子に師事し、書道を始める。20歳で銀座画廊において初の個展を開催。その後建長寺、建仁寺、東大寺、中尊寺などで個展を開催。巖島神社などで奉納揮毫。2013年に国体開会式において巨大文字を揮毫。紺綬褒章受賞。天皇御製を謹書。著書に『小さき花』（小学館）、『希望の筆』（佼成出版）、『翔子』（角川マガジズ）、『お母様大好き』（いきいき株式会社）がある。



私と小鳥と鈴と

私が両手をこらげても

お空はちつとも飛べないが

飛べる小鳥は私のように

地面を速くは走れない

私がかつたをゆがんでも

きれいな音は出ないけど

あの鳴る鈴は私のように

たくさんな唄は知らないう

鈴と小鳥とそれから私

みんながうたうみんなが

翔子  
かこ

